|  |
| --- |
| **東広島市立吉川小学校**  **「主体的に学び，ふるさと吉川を創ろうとする子どもの育成」**  **～思考力が高まるかかわり合いを通して～**  HP : http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/yoshikawa-sho/ |

空　本　純　子

**１　本校の概要**

　　本校は，創立140年を超える伝統がある。自然環境に恵まれ，「美しい日本のむら景観百選」に選ばれた田園風景が広がっているが，工業団地等の開発により，地域の活性化も図られている。

昨年度から3・4年生が複式学級となり全5学級，全校児童52名の小規模校で，小規模特認校制度を利用して今年度は４名の児童が他地域から通学している。児童のおよそ８割の家庭が３世代同居または同じ敷地内に住んでおり，地域の人々の教育に対する関心は高く協力的で，ふれあいの場でもある行事が盛んに行われている。

**２　研究の概要**

本校では，平成元年に文部省（現文部科学省）の生活科研究開発校としての指定を受け，その後も生活科・総合的な学習の時間を中心とした研究を行ってきた。21世紀に必要とされる学習意欲や思考力を身に付けるとともに，ふるさとのよさに気付き，大切にしようとする心情や態度を育成し，学校経営目標でもある「吉川を創ろうとする児童」を育むために，学習過程において，思考力が高まるよう児童とヒト・モノ・コトといった他者とのかかわり合いを意図的に仕組み，「地域貢献」をゴールに様々な探究活動を位置付けた「ふるさと学習」を創ってきた。

今年度からESDの視点を加え，目指す子ども像である「積極的に社会の問題を探究し，解決するための行動を起こすことのできる子」の育成も図るべく，研究を進めている。

**３　実践**

|  |
| --- |
| 「吉川の自然増やし隊！～ホタルが舞うすてきな吉川を創ろう～」（昨年度3・4年生の取組） |

（１）本単元におけるESD

　・単元の概要

　　　自分たちの生活する地域を調べ，実際に調査・観察をすることで，地域の魅力について深く学ぶとともに，地域の魅力と地域とがどのように結びついているか活動を通して学び，地域への愛着を深め，自然や人と進んでかかわりながら環境を大切にしていこうとする態度や実践力を育てていく。

　　【主なESDの視点】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 持続可能な社会づくりのための構成概念 | | | | | | ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度 | | | | | | |
| Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ | Ⅵ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| 多  様  性 | 相  互  性 | 有  限  性 | 公  平  性 | 連  携  性 | 責  任  性 | 未来像を予測して  計画を立てる力  批判的に考える力 |  | コミュニケーション  を行う力  多面的・総合的に  考える力 |  | 他者と協力する  態度 | つながりを尊重する  態度 | 進んで参加する態度 |
| ○ | 〇 | 〇 |  |  |  |  | ○ | 〇 | 〇 | ○ | 〇 | ○ |

（２）単元の目標

　　　ホタルを増やすためにできることを地域の自然や人とのかかわりを大切にしながら調べたり実践したりする活動を通して，地域への愛着をもち，環境を大切にしていこうとする態度を育てる。

（３）活動内容（全５５時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 小単元 | 学習内容 | ESD |
| １ | 古河川の自然の実態調査し隊！ | 川探検から，川の現在の様子を理解する。 | Ⅰ・Ⅲ  ② |
| ２ | 志和堀小学校の取組から考えよう！ | 実態調査結果と先進的取組を行っている学校の活動を関連させて考え，今後の課題を決定する。 |  |
| ３ | 自分の課題を詳しく調査し隊！ | 調べたい課題に合った方法で，グループごとに調べる。 | Ⅱ  ③④⑤ |
| ４ | 中間報告会を開き，パワーアップさせよう | これまで調べたことを地域の方に知らせたり友達と伝え合ったりし，さらに追究したいことを見つける。 | Ⅱ  ⑥ |
| ５ | 活動報告会を開こう | 学んだことをまとめ，報告会を開く。 |  |
| ６ | 学習を振り返ろう | 学習を振り返り，取組の成果とともに自分たちの成長を確認する。 | ⑦ |

（４）指導の実際

専門家と出会わせる機会を多く取り入れ，児童が自分の意見や考えをもち，学習を進められるよう考えた。東広島市役所で行っている「生涯学習まちづくり出前講座」（環境対策課）では川での生き物探しから水質を考えさせ，ホタルについて長年地域ぐるみで取組をしている市内小学校の3・4年生児童との交流の中からで自分たちにできることを考えさせた。また，新聞社主催の地元企業による「水の役割教室」で水を汚さない工夫や自然の浄化作用について知らせてもらい，それを受けて地域の方と一緒に炭を作る活動や炭について学ぶ機会を得た。これらの活動を通して，児童は自らの考えを深めたりよりよい行動をとろうと努力したりすることができた。

　　　また，これらの方との活動を1回で終わらせず，悩んだときにはいつでも質問ができるよう継続的に連携を図った。生き物の名前を尋ねたり自分たちの活動のアイディアが浮かんだ時に支援していただいたりすることができ，学習意欲を継続させながら活動を進めることができた。

　　　さらに，活動してきたことを地域や交流している小学校や市役所等，発信する場を設定した。このことは，くり返し自分たちの活動をふり返ることで，取り組んできたことの意味や自分たちの思いを確認したり，新たな活動のヒントを得たりすることにもつながった。

　　　この取組を環境省主催の「こどもホタレンジャー」に応募したところ，最優秀賞である環境大臣賞を受賞することができた。

**４　成果と課題**

　○課題解決に向かって他者とかかわりながら探究的な学習過程を繰り返し行っていく「ふるさと学習」はESDで重視する能力や態度の育成に通じるものである。このことで，児童にあらゆる角度からものごとを深く考える力が身に付き，活用力の向上にも結び付いてきた。

○これらの学習を通して，主体性や地域への誇りが高まってきている。児童アンケート「地域のために役立つことができたか」の結果は，年度当初68.8%から85.2%に増加した。

○これまでの教育活動をESDの視点で捉え直すことで児童への支援の仕方や声のかけ方も変わり，「積極的に社会の問題を探究し，解決するための行動を起こすことのできる子」の育成を図ることにつながっていく。

●ESDの視点が抽象的なままだと評価が難しい。児童に身に付けさせたい能力や態度を明確にして実践にあたり，児童に思考力を高め，他者とよりよくかかわりながら主体的に行動できる力を身に付けることができるよう研究を積み重ねていきたい。

|  |
| --- |
| **東広島市立志和中学校**  **「和文化学習の創造」**  **～心技体一致の学び～**  HP : http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/shiwa-chu/ |

清　水　秀　宣

**１．本校の概要**

　　志和中学校は創立68年の伝統ある学校である。学校教育目標を『夢と志を持ち，果敢に挑戦し，

自己実現する生徒の育成』とし，「和文化学習」をはじめとした体験活動等の充実を図り，豊かな心

と健やかな体を育んでいる。また，言語活動の充実により授業力の向上を図り，確かな学力を育んで

いる。全校146名の生徒たちは，自然豊かな環境の中で素直に純粋に育ち，学習や部活動に熱心に

取り組んでいる。

**２．研究の概要**

　　本校の取組とESDの推進との関連

□研究主題　「主体的に表現する子どもの育成を図る指導の工夫」

　　　　　　～和文化学習を基盤に協同的な学び合い活動の充実を通して～

□ESDを通して生徒に身に付けさせたい力

　　○多面的・総合的に考えることができる。

　　○相手を尊重しながら，協同的に課題を解決することができる。

　　○主体的に行動することができる。

**３．実践内容**

（１）武道（杖道）の実践

　　本校では，保健体育科の武道必修化に伴い，武道として「杖道」を行なっている。（各学年12時間

実施）

　杖道は一般には馴染みが薄いが、約四百年の歴史を持つ日本古来の伝統文化であり、杖と太刀による

形の武道で、未経験者でも比較的習得しやすい武道である。

【杖道を指導する場合の利点】

　　○安全であり，特別な施設・設備や用具を必要としない。

　　○運動を苦手とする生徒にも受け入れやすく，実際に取り組んでみると上達を実感しやすく，体育

を苦手としている生徒には，苦手意識が払拭される。

　　○男女共修が可能であるため，体育大会などで集団演技として扱えるという点からも，表現力の

育成にもつながっている。

【杖道の効果】

　　○礼儀，責任，誠実，忍耐などの精神が養われる。

　　　（つながりを尊重する態度）

　　○姿勢態度がよくなり，身体を強健にし，活動を敏活にする。

　　　（進んで参加する態度）

　　○判断力，決断力が養われ，自信を持って事にあたれるように

なる。

　　　（批判的に考える力）・（多面的・総合的に考える力）

　　○対人関係がよくなり，社会生活に必要な協調性が養われる。

　　　（他者と協力する態度）・（コミュニケーションを行なう力）

（２）和文化本物体験

　　本校では，各教科や学校行事における和文化本物体験により，日本の伝統や文化のよさや豊かさに

気付き，その価値や意義を理解することで，自分が日本人であるというアイデンティティの確立につ

ながっている。また，地域の人材を活用して取り組むことで，自分の生まれ育った，ふるさと志和に

誇りと愛着を持つことにつながっている。

【和文化本物体験】

　　○浴衣の着付　　○茶道　　○水墨画　　○居合道　　○筝　　○神楽　　○講談

　　○俳句甲子園　　○書初め　　○百人一首　等

【和文化本物体験の効果】

　　○他人を思いやる心，礼儀、集中力が養われる。

　　　（批判的に考える力）・（他者と協力する態度）・（コミュニケーションを行なう力）

　　○自国の文化を大切にする心を養うことで，他国の文化を尊重する心が養われる。

　　　（つながりを尊重する態度）

　　○郷土に誇りをもって語ることができる生徒が育成される。

　　　（進んで参加する態度）・（多面的・総合的に考える力）

　　○グローバル社会で活躍できる生徒が育成される。

　　　（未来像を予測して計画を立てる力）

（３）志和しぐさの実践

　　本校では、生徒会活動の１つとして、「志和しぐさ」の実践に取り

組んでいる。

　　「志和しぐさ」は、「江戸しぐさ」に倣って、学校生活をより良くするため、生活に取り入れて

　いきたい行動について検討し、各学級から出されたアイデアを集約し、８つの「志和しぐさ」として

　まとめたものである。そして、この「志和しぐさ」を、生徒会執行部が生徒朝会の場で寸劇を披露す

　ることを通して学校生活への浸透を図っている。

【志和しぐさ】

　①笑顔あいさつ　　②授業切り替え３秒しぐさ　　③スリッパ直しぐさ　　④思いやり会話

　⑤うかつあやまり　　⑥立ち止まりあいさつ　　⑦横断小走り　　⑧ふた声あいさつ



【志和しぐさの効果】

　　○授業や行事に主体的に参加しようとする態度が育成される。

　　　（進んで参加する態度）

　　○相手を尊重する態度が養われる。

　　　（つながりを尊重する態度）

　　○社会で必要な協調性やコミュニケーション能力が養われる。

　　　（他者と協力する態度）・（コミュニケーションを行なう力）

**４．成果と課題**

　○和文化学習を進めていくことで，礼節や思いやりといった他者への心配りが自然にできる態度を

養うことになっており，日本人としてのアイデンティティの確立につながり，ESDの考え方の基盤

となっている。

　○ESDの視点に立った学習指導で，重視する能力・態度と，本校で取り組んでいる和文化本物体験の

ねらいを比較整理し，さらに工夫改善を加えながら，和文化学習を進めていく必要がある。

|  |
| --- |
| 広島県立賀茂高等学校(全日制課程)  **「国際教育の実践」**  HP : http://www.kamo-h.hiroshima-c.ed.jp/ |

堀　江　典　子

**１　本校の概要**

　本校は創立110年目になる賀茂台地の伝統校である。西条駅から西に徒歩15分の場所に位置し，

9割以上の生徒が東広島市内から通学している。ほとんどの生徒は卒業後，大学への進学を希望して

いるため，第1学年から習熟度別授業を行い，個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行っている。

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒数 | 753人（男子348，女子425） |
| 教職員数 | 65人（非常勤講師10を含む） |
| 平成27年3月卒業生の進路 | 国公立大51， 私立大155，文科省所管外大学校 1，  短大11,　専門学校36，就職8，その他13 |

**２　本校の国際教育**

（１）賀茂高校のミッション

賀茂台地の伝統校として，その歴史と校是「信　敬　愛」を誇りとし，文武両道に励み，随所にリーダーとして，郷土をはじめ社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。

|  |
| --- |
| ○自分とは異なる文化や考え方を尊重し，積極的にコミュニケーションを取ろうとする。  ○異文化を背景とする人々に積極的に英語で発信する。 |

（２）平成２７年度の国際教育について

|  |  |
| --- | --- |
| 5月 | 台湾　桃園市　永豊高級中学来校（第2学年） |
| 7月 | グローバル人材育成プログラム（第2学年） |
| 9月 | オーストラリア　Geelong高等学校来校（第2学年） |
| 10月 | 姉妹校　韓国　外国語高等学校にて本校教員による交流授業 |
| 10月 | 広島大学留学生との交流（第1学年） |
| 11月 | 姉妹校　韓国　外国語高等学校による韓国文化についての交流授業 |
| 12月 | 姉妹校　韓国　外国語高等学校来校予定（第1学年） |
| 1月 | 姉妹校　韓国　外国語高等学校訪問予定 |

（３）台湾・オーストラリアの高校生との交流の実践（第2学年）

今年度は，国際教育を進めるにあたり，交流内容をESDの視点でとらえ直し，教材のつながり，人のつながり，能力・態度のつながりを重視した。実際の交流は，英語表現の授業の中での文化紹介に関する単元で学んだ内容を活用する場面として，総合的な学習の時間に実施した。

|  |  |
| --- | --- |
| 次（時） | 学習内容 |
| 春休み  課題 | 東広島についての案内を英語で書く。  1. 東広島のおいしいもの，名所，有名人などについて書く。  2. 写真または絵を3枚以上使って説明する。  3. ガイドブックなどに載っていない情報を必ず書く。 |
| 1 | ・Vision Quest IIの教科書の本文で取り上げられた文法事項や語彙・表現を確認  する。  ・Vision Quest IIの教科書の本文やモデル文を読んで，文の構成を理解する。  ・自分が海外の高校生に紹介したい日本の食べ物について，マインドマップを  描き，内容をまとめる。  ・構成に注意しながら，文章を書く。 |
| 2 | ・前時で確認した文法・語彙が正しくかけているかどうかをペアで確認しあう。  ・共通の誤りについては，板書をし，説明する。  ・4人～5人のグループ内で積極的に発表を行い，グループで一番紹介したい食べ  物を決定する。  ・グループ内で協力しながら，よりよいプレゼンになるように原稿を書きなおす。  （書きなおした原稿は，ALTとJTEでチェックをする。）  ・想定される質問を考える。  ・プレゼンで用いる資料の準備をする。 |
| 3 | ・海外からの高校生に，グループごとに日本の食べ物を紹介する。  ・生徒の司会で進めていく。 |

○教材の「つながり」について

　　今回は，生徒に日本文化，特に地域の文化を英語で説明することを課題とした。多くの生徒が小学校での地域学習，中学校での総合的な学習の時間の学習内容をもとに題材をさらに研究し，英文に仕上げていた。

○人の「つながり」について

　　聞き手となる海外からの修学旅行生は，文化背景も違い，日本語がほとんど通じないということを意識させた。その結果，聞き手の理解を容易にするために，日本特有のものを説明するとき，「お好み焼き＝Japanese pizza」というように相手の文化から想像しやすいものを例えとして挙げたり，実物や絵などの資料を用意したりして，工夫していた。

また，相手の滞在日数や旅行の行程を考慮に入れて，観光地や駅・空港などで手に入りやすい食べ物を紹介するなど，その相手にとって役立つ情報を選択しようとしていた。

○能力・態度の「つながり」について

　　　生徒の多くが，絵や実物，アイコンタクトなどを用いたり，効果的な構成を意識したりして，説明を行っていた。小中高でのスピーチやプレゼンテーション活動を通して「自分の伝えたい内容を整理し，わかりやすく伝えるための工夫をしながら自分の考えや主張を話す力」が高まり、コミュニケーションにおける積極的な態度を生んでいた。

**４　成果と課題**

○外国語を使用する機会を与えて，コミュニケーション能力が向上した。

○相手を意識させることによって，相手の国を知り，自国への理解も深まった。

○学校内外の人材や組織との連携を促進し，身近なところから世界とのつながりを感じ，学校における国際教育の充実・活性化を図っていくことが課題。

|  |
| --- |
| **韓国外国語高等学校**  **「人口問題に関する教育について」**  HP : http://mch.icehs.kr/main.do |

**１　本校の概要**

　本校は，外国語の教育に特化した特殊目的校として2010年に開校した新設校である。首都ソウルから南西に20km，韓国の仁川国際空港からは車で30分の場所に位置しており，今年の2月に3期の卒業生を輩出した。本校の教育目標は生徒たちの夢を実現させ，世界の流れと歴史を主導するグローバル人材を育成することである。

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒数 | 572名（男子190，女子382） |
| 教職員数 | 75名（ネイティブ教師8名を含む） |
| 2015年度大学修学能力試験 | 大学入学試験結果，  全国25位（全国の高等学校の数2,322校） |

**２　人口問題に関する教育活動**

（１）目的

・ 多様な人口の現象について知識と態度を形成して内面化する。

・ 教科と連携したプログラムを運営して人口教育活動をする。

・ 少子高齢化の問題点を認識して合理的な価値観と態度を養う。

（２）教育活動内容

　　　①人口問題の認識

・世界のいろんな人口現象の調査

・韓国の少子高齢化の問題の深刻さ

・部活動、キャンペーン、セミナー、論文などの活動を通して認識変化

　　　②　S·M·A·R·T 人口教育プラン

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  | 教育内容 |
| S | Specialist | 外国語教科を中心として人口教育の専門活動運営  人口教育関連の専門家の講演会 |
| M | Making | 人口教育の実践のための教授学習資料及び生徒活動プログラム開発 |
| A | Action | 生徒自律活動の人口教育実現 |
| R | Relation | 多文化家庭の理解、世代間の葛藤理解  地域社会との連携 |
| T | Tomorrow | 変化する未来に能動的に対処できる人材育成 |

　　　③行事と大会との連携した教育

・大会：人口問題を主題とした外国語スピーチ大会、論述大会

・行事：外国語文化生徒朝礼での発表、父兄との家族キャンプ、人口の専門家招請

・討論：ディベートアカデミー、各科目の授業中討論

・人口関連のE-BOOK：各科目で活用

・地域との連携：図書館、多文化センター、ボランティア

・部活動：キャンペーン、セミナー、論文

**３　人口問題に関する具体的な生徒活動**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 活動名 | 写真 | 生徒の活動の内容 |
| ミチュホル  真夏の夜  家族キャンプ  音楽会 | 가족캠프 | ・家族の絆を深めて両親の世代を理解したり、生徒のストレス解消 |
| クラブ週間 | 활동1 | ・キャンペーン、ポスター広報、アンケートなどの活動で人口問題について認識及び意識変化  ・論文やセミナー週間で普段の学習の成果をこの時期に発表 |
| 外国語文化  生徒朝礼 | 20150715_160500_HDR | ・年４回実施している行事でクラブやグループで外国語で自分の意見や海外の文化を紹介  ・今年の第3回目は人口関連の主題についてプレゼンテーションや演劇や研究発表を実施 |
| 外国語  スピーチ大会 | 20150909_170327_HDR | ・日本語、中国語、スペイン語、フランス語で人口関連の主題についてスピーチ  ・難民、多文化家庭、青少年自殺、独居老人、少子高齢化、育児、社会保障制度など水準のあるスピーチ内容 |

**４　成果と課題**

○人口問題の範囲を広げて考えてみることができた。少子高齢化による職業観、生命尊重、青少年の自殺、多文化家庭の理解、北朝鮮からの移民者、結婚観、堕胎、未婚の母などの社会の問題を人口問題と連携してみる観点を持ったこと。

○フランス、スウェーデン、日本、フィンランドなどの事例を調査して対処する方法を探るのに英語や外国語を使用する機会を与えて自信感，言語力，創造力が向上したこと。

○世界でおきている問題を共有し解決方法を探しながら，他の国の事情を理解できた。

○教育の結果がすぐに出ないため、認識や価値観の変化を確認することが難しい。

|  |
| --- |
| 広島大学  **「ESD・ユネスコスクールの普及と推進のために」**  HP：http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j. |

由　井　義　通

**１　ASPUnivNet（ユネスコスクール大学間支援ネットワーク）の一員として**

拡大するユネスコスクールのパートナーとしてユネスコスクールの活動を支援するため2008年に

大学間ネットワークであるASPUnivNetが発足した。広島大学大学院教育学研究科は，2011年に

ASPUnivNet加盟大学となった。それにあわせてユネスコスクール委員会を設置し，ユネスコスクー

ルやESDに関する活動支援や研究を展開している。今後ますます拡大すると予想されるユネスコス

クールへの加盟や学校におけるESDの展開を支援するために，広島大学はどのような貢献ができる

のか。本発表では，ESDと関連させたグローバル人材育成をテーマとして，システムシンキング，ク

リティカルシンキング，ロジカルシンキングなどの多様な思考力を育成することによって，グローバ

ル社会の中で生きていく人材を育てることを目的として，現在の活動とそこに残された課題を整理し

ながら，ユネスコの今後の活動を展望する。

**２　ユネスコスクール委員会の活動**

（１）ASPUnivNetの会議や研究会への参加

各地で加盟大学が中心となって実施しているユネスコスクール研修会などについての報告

　　　　や情報交換を行う連絡会議（年1回）や，ユネスコスクール全国大会（年1回）などに参加す

　　　　ることで，ESD・ユネスコスクールに関する資料や情報を収集する。

（２）ユネスコスクール加盟申請支援

広島大学大学院教育学研究科ユネスコスクール委員会では，広島・山口県内の小中高等学校

　　　　等を対象として，そうしたユネスコスクール加盟申請の支援を行っている。具体的には，加盟

　　　　を希望する学校が作成した申請書に対して，ユネスコスクールの理念に沿っていること，ESD

　　　　として明確で具体的な実践計画が立てられているかどうかということを中心にコメントを付

　　　　している。

ユネスコスクールはESDを推進する拠点として位置づけられているが，ESDの捉え方や取

　　　　り組み方は千差万別である。国際理解教育や環境教育などの既存分野からの取り組みが積極的

　　　　に行われているが，ESDは全教科で担当し，ESDの質的改善が必要と考える。

（３）ユネスコスクール加盟校への支援

ユネスコスクールに加盟することはゴールではない。加盟後にいかにESDの拠点となるユ

　　　　ネスコスクールとして教育実践の質を向上していくかということを試み続け，その省察と改善

　　　　を続けることが大切である。

そのようなユネスコスクール加盟後の支援のひとつとして，本研究科では，昨年度から講演

　　　　会や研究会を開催している。そしてそれらを，学校教育現場におけるESDの理解を深めると

　　　　同時に，情報交換を行う場としても位置づけている。

**３　今後の展望**― **つながる・ひろがる・わかちあう ―**

（１）ユネスコスクール加盟校への支援

本委員会の活動は緒に就いたばかりであり，現在の最も大きな課題はユネスコスクール加盟校

とのつながりを作り，直接的な支援を提供することである。現在は加盟後の活動が全く把握でき

ていない。加盟校の活動を交流する場を設け，そこでの活動報告を受けて活動の実質化と質的向

上を図る支援策を検討している。

　　　　① ESDとしての単元構成や授業実践など、教育法に関する助言や支援

　　　　② ESDとして取り組む具体的なテーマに関する専門的な助言や支援

　　　　また，ESDはユネスコスクールだけの問題ではない。加盟校以外の学校ともESDを起点とし

たつながりを作り出すような情報提供・交換の場としても機能できればよい。

（２）教員養成に資するESDのカリキュラムの充実

　　　　ESDに関する内容を授業に盛り込むよう推奨したり，ESDに関連する授業科目を設けたりす

ることで，これからの教育を担う学生を，ESDに関する資質・能力を十分に備えた教師として養

成していくことが重要である。それは，教育の未来とのつながり作りとして教育学研究科が担う

役割のひとつである。養成段階のみならず，教員免許状更新講習等において教師への啓蒙を図り，

実力をつけることの支援もしていきたいと考える。

　　　　このように，様々なつながりを糸として教育・授業の改善のひろがりを試み，教育を通してよ

りよい未来を子どもたちがわかちあえることをめざして日々の活動に励みたい。

（３）ユネスコ・グローバル人材育成のためのコンソーシアムの企画

　　　　グローバル人材育成という教育学研究科の目標と関連したESDコンソーシアムの設立について，大学が代表団体となり，県市町村の教育委員会、JICA，企業，NPOが構成団体となって，グローバル人材の育成をテーマとしたコンソーシアムを設立する。広島大学が核となってESDに関する研究会・研修会等を企画する。今後，県教委，市町教育委員会，広島県ユネスコ連絡協議会などの関係団体や県内の大学やユネスコスクールと話し合いながら，コンソーシアムの設立趣旨を説明し，協力体制を整備していく必要がある。

　　　　県内各大学での研修会とともに，グローバル人材の育成に関して，問題解決能力・批判的思考・

システム思考・代替案を考える思考力(クリティカルシンキング)・国際理解力・協調性などの各

種思考力とスキルの育成などをテーマとした教員研修会や教員を目ざす学生を交えた研修会を，

県内外各大学や関係諸団体・企業などから講師を選出して開催する。

参考：樋口聡、朝倉淳、柴一実、富川光、由井義通、中井悠加「ESD・ユネスコスクールの普及・推進

のための基礎的研究」『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』第12巻，

pp.241-250、2014年